



志茂田景樹（しもだかけき）

【本名 下田忠男（しもだただお）】

1940年 静岡県生まれ

1976年 小説現代新人賞「やつとこ探偵」でプロデビュー

1980年 「黄色い牙」で第3回直木賞受賞

1984年 「気笛一声」第4回文芸大賞を受賞

1990年代には、バラエティ番組やドラマ番組に出演。

1999年 妻と共に「よい子に読み聞かせ隊」を結成。

読み聞かせの他、不登校児童の支援など

社会活動にも積極的に関わる。

志茂田景樹的生き方

直木賞作家が語る、
自己の解放と百歳まで生きる極意



志茂田景樹といえば、どのようなイメージを思い浮かべるだろうか？

前向きな発言で人気を博しフォロワーは25万人を超えた。

一時期昼の帯番組などで披露し話題となつた独特の過激なファッショングの影に、直木賞作家としての姿は薄れ気味だが、昨今は全国の長寿者を訪ねてその健康法を本に著したり、一方では絵本・童話を創作し子供に絵本の読み聞かせをする「よい子に読み聞かせ隊」を夫婦で組織し、ボランティアと共に活動している。

彼のツイッターはその豊富な経験と鋭い洞察力に加え、温かみのある

「70代80代で、今以上に多面的な活動を行うつもり（平成25年2月23日 第147回芥川・直木賞の受賞祝賀パーティー翌日のブログより）」の彼の動向からは、まだまだ目が離せそうにない。

2月6日吉良温泉・吉良の庄、2月7日東愛知サロンと三河地方で行われた2回の講演会から、彼の人柄

「能力があつて社会的地位の高い
人の方が、意外と自分と違う価値観
を認めようとしないんです」

いたつて健康で、周囲の者も百歳を超えるのは間違いないと踏んでいたのだが、ふとした風邪がもとで体調を崩し、94歳で亡くなつた。

■ 趣味や、楽しくやれることを
持っている

■ 1人暮らしでも、肉親や地域の人
と積極的にコミュニケーションを
とっている

材した百歳を超えてなお元気な高齢者の生活習慣などを紹介する。

奇抜なファッショング

博報

作家として文壇に登場した当初は、志茂田景樹の「アッシュ・ジョン」はダンディそのものだった。178cmの長身にトランクス・ショーナルなスースを着こなした彼の姿は、英國紳士とでもいつた風貌だった。

それがカランターテイツにオーランジーのヒラヒラTシャツ、何色にも染め分けたまるで南国のオウムのようなヘアースタイルに激変したきっかけは、20数年前小説執筆中に、ホーテルにカンヅメになつた時であつたという。

ゼントされた派手なタイツを履いて、気分転換に米国帰りの友人にプレゼン

みた彼は、なんどその街の通りをうろついた。当然巷の街にとびだしてしまった。当然巷の人間に白い目でみられ、後ろ指をさ

長寿に家系は関係ない

志茂田景樹の母は90歳を超えても

- 野菜を多食している
- 自分で出来ることは、自分でやる
- 人生観、信念をもつてている
- 若い時からよく働いて、
- 手先が器用で
- 足腰がしつかりしている

